

株式会社システムインテグレータ（証券コード：3826）

創業来15期連続黒字を目指す

上場市場：東証マザーズ

URL：www.sint.co.jp

説明会開催日：09年10月29日

株価（09年11月6日終値）：67,000円

売買単位：1株

1株当たり配当金(10年2月期予想)：250円（通期の配当金で、09年8月期中間決算短信より抜粋）

1株当たり利益（10年2月期予想）：1,141円（同上）

(1)会社概要

自社パッケージソフトの開発、販売が収益の柱。対象製品は 開発支援ツールの「SI Object Browser」、ECサイト構築用の「SI Web Shopping」、ERP（統合型基幹業務システム）の「G RANDIT」の3本柱。08年より新製品であるプロジェクト管理システム「SI Object Browser P M」を投入し、4本目の柱として育成に注力している。対象マーケットは日本がメインであるが、中国市場への進出も本格化し、事業の多角化を図っている。

業績推移(非連結決算ベース)

決算期	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期利益 (百万円)	1株当たり指標(円)		
				EPS	BPS	配当金
08年2月期	2,034	243	135	10,376.7	94,364.7	2,200
09年2月期	2,005	13	0	23.4	92,188.1	0
10年2月期(予)						
期初計画	2,000	200	110	8,366.3		1,800
修正後の計画	1,730	30	15	1,140.9		250
08年8月期中間	757	-114	-70	-5,589.4	86,575.3	0
09年8月期中間	807	-49	-30	-2,315.0	89,873.1	0
進捗率(%)	46.6	-163.3	-200.0			

注：

「期初計画」は09年2月期決算発表時の数値で、「修正後」は09年10月2日公表の数値。

進捗率は10年2月期の修正後計画に対する09年8月期中間決算の達成率。

出所：会社の決算短信などをもとに当社作成

(2)注目ポイント

95年3月に同社を設立して以降、前期まで14期連続の黒字を達成している。今上期は赤字を計上したが、収益は傾向的に下期のウエイトが高いことから、通期で15期連続の黒字確保を目指している。

中期展望では 製品群の拡充 SaaS / ASP事業やメンテナンスの有料化などによるストックビジネスの確立 コンサルティング事業の強化 海外、特に中国市場への進出、などを計画している。これらの進捗状況如何によっては、ここ数年、売上高は頭打ち傾向がみられるが、それを脱却し、次のフェーズへの展望が開けてこよう。

当情報は企業説明会開催日をもとに記載した内容であり、予告なく変わる場合があります。また、信頼できると考えられる情報に基づき作成していますが、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。本ホームページに掲載されている情報は、弊社のご案内のほか、証券投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の最終的な決定は、各企業、各証券取引所、日本証券業協会等の信用できる機関などを通じて、事実確認を行ったうえで、お客様ご自身の判断なさるようお願いいたします。当情報の一切の権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

(3) 今期の事業展開

09年9月に業績を見直した10年2月期の収益は、売上高は前年度比13.7%減の17.3億円、経常利益は同130.8%増の30百万円の見通しを公表した。09年2月期の決算短信で公表していた今期計画に比べて下方修正を行ったことになる。しかし、梅田社長のコメントによると、これはかなり固めの数値とのこと。今回の収益を上乗せしていく要因として期待しているのが、ERPであるGRANDIT、新製品であるプロジェクト管理システムSI Object Browser PMと開発支援ツールのSI Object Browserの3製品。

10年2月期通期のGRANDITの売上高は前年度の8億11百万円から8億46百万円と増収を見込んでいる。景気低迷下にあつて、会社が予想した回復基調よりも早いテンポで回復している模様。受注から納品までの期間は1年ほどかかるために一気に売上計上は期待できないが、それでも進行基準によって、一定の売上計上ができるので、公表数値よりも上乗せ期待が大きい。また、新製品であるSI Object Browser PM は知名度の向上、SI Object Browser は従来、オラクルの販売動向に左右されやすかったが、12月からIBM製品のDB 2 版のリリースや保守サポートの有料化などによって、更なる売上伸長を目指している。

一方、経費面は自社開発のプロジェクト管理を社内にも導入してコスト圧縮に注力しており、今期の経常利益は30百万円、当期利益は15百万円と共に黒字を見込んでいる。達成すれば創業以来15期連続の黒字達成となる。厳しい経済環境下において、同社の堅実経営は大いに評価されているのではないだろうか。

(4) 中期展望

08年2月期に過去最高の売上高20億34百万円を達成して以降、頭打ちの傾向が出てきている。これを打破し、どう次のフェーズに展開していくのか注目されるが、それに向けた施策として同社が打ち出しているのが、以下の事項である。

1つ目が、既存製品（EC、開発支援ツール、ERP）の3本柱に、新たに導入したプロジェクト管理システムが4本目の製品として早期に育成していく。

2つ目が、海外展開である。特に、中国市場への進出が本格化させていく。これには同社がアジア向けのEC事業者を支援するコンソーシアムを発起人として立ち上げた。また、中国市場参入のため、同社の製品であるSI Web Shoppingの多言語版の導入を計画している。

3つ目が、SaaS / ASP事業や保守の有料化などのストックビジネス。

4つ目がコンサルティング業務の注力である。

以上の中期的な経営戦略の今後の進捗具合が注目される。

参考1：「SaaS」(Software as a Service の略)

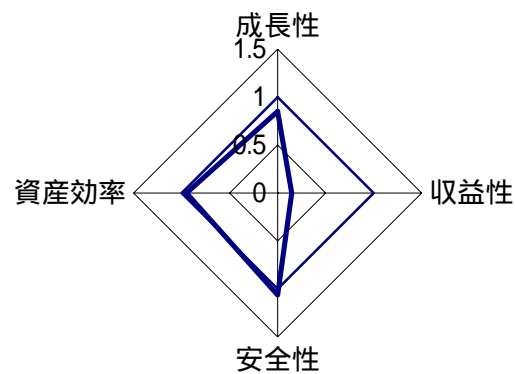
ソフトウェアの販売はユーザーにライセンス販売し、ユーザーの持つコンピュータでソフトウェアを利用するのが一般的。最近注目されているのがクラウドコンピューティングで、SaaSはその一種。ユーザーはソフトウェアを提供する側のコンピュータで稼働させ、サービス使用料を支払うという形態。このビジネスモデルが進むと、ユーザー数が増えるほど安定的な収益獲得がで

当情報は企業説明会開催日をもとに記載した内容であり、予告なく変わる場合があります。また、信頼できると考えられる情報に基づき作成していますが、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。本ホームページに掲載されている情報は、弊社のご案内のほか、証券投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の最終的な決定は、各企業、各証券取引所、日本証券業協会等の信用できる機関などを通じて、事実確認を行ったうえで、お客様ご自身の判断なさるようお願いいたします。当情報の一切の権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

きるので、同社のいうストックビジネスが確立していくと期待される。

参考2：財務諸表にみる

08年2月期を1として、直近の数値とを比較すると、収益性、成長性が下回っている。景気の冷え込みなどの影響が大きいと考えられる。ストックビジネスや中国展開など、中期戦略の実現性に今後注目したい。



注:

成長性は売上高、収益性は経常利益率

安全性は株主資本比率、資産効率は総資産回転率

各指標は08年2月期を全て1として、直近時(青色の太線)との比較を行った。

出所: 会社の資料をもとに当社作成

当情報は企業説明会開催日をもとに記載した内容であり、予告なく変わる場合があります。また、信頼できると考えられる情報に基づき作成していますが、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。本ホームページに掲載されている情報は、弊社のご案内のほか、証券投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の最終的な決定は、各企業、各証券取引所、日本証券業協会等の信用できる機関などを通じて、事実確認を行ったうえで、お客様ご自身の判断なさるようお願いいたします。当情報の一切の権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。